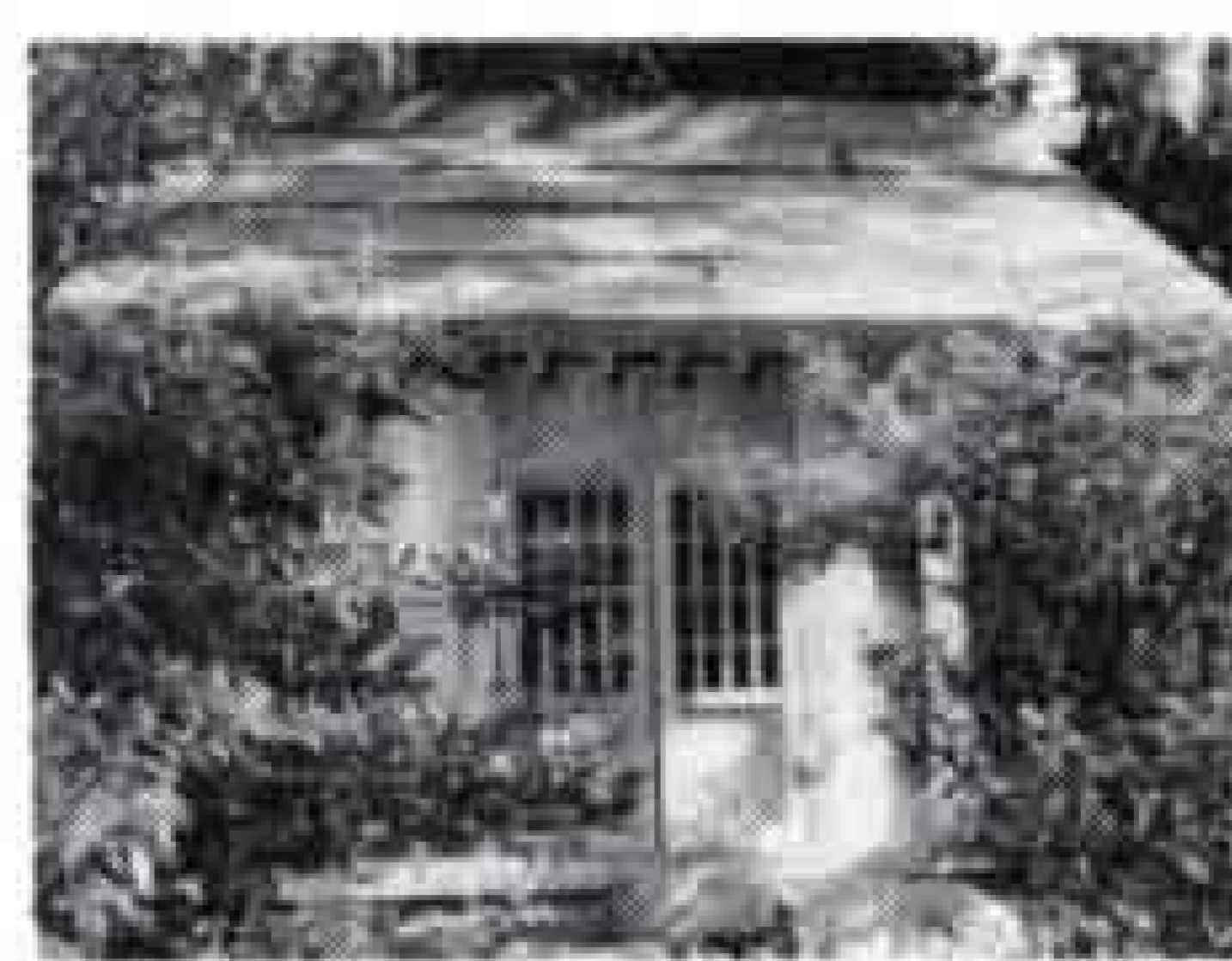


ふるさとの昔話

曾比奈のおしゃもつさん

曾比奈では以前、十二月十五日になると子供たちが、「おしゃもつさん」に集まり、赤飯を食べました。この赤飯を食べると風邪を引かないと言われていたからです。



おしゃもつさん



みんなで食べたおもつこ

大淵・曾比奈の寂しい道端に「おしゃもつさん」と呼ばれている小さなほこらがあります。

みんなのお父さんやお母さんが子供のころのことです。十二月十五日の夕方になると、「みんなおいで、おしゃもつさんのおもつこだよ。」

とつぶおじさんの声に、どの子も急いでおしゃもつさんのほこらの前に集まりました。

町内会のおじさんが、お供えしであった赤飯を少しずつ、子供たちに分けてくれるのでした。

子供たちは分けてもらった赤飯を大事においしく食べました。

子供の風邪の神様

おしゃもつさんは子供の風邪の神様だからです。おしゃもつさんからいただいた赤飯を食べると、ことし一年、風邪を引かないし、

ひいてもすぐ治ると言われていたのです。でも、このごろは「おもつこだよ、みんなおいで。」と呼びかけても、もらいに来る子がなくなつたので、いつとはなしに、おもつこも供えなくなり、おまつりもやらなくなつてしまいました。

けれども、「どうか、この子が風邪を引きませぬように。」と、お祈りする人が今もいるらしく、時、十円玉が二つ三つほこらの前に供えられています。

おもつこを復活したい

八王子本町の服部源一郎さん(六十七歳)は、「おしゃもつさんはずっと昔からあった神さんです。二十年ぐらい途絶えていたおもつこ配りを、二・三年前やってみたくて子供が集まりませんでした。いつか復活させたいね。」と語ってくれました。



服部さん

地名の由来

市場寺 (今泉地区)



天文二十三年(一五五四年)

三月十日、今泉善徳寺で今川義元、武田信玄、北条氏康の三将が会盟したと伝えられています。戦国時代、善徳寺は三武将の会盟の場所になったほどの大寺院でした。

寺市場というのは、善徳寺の門前町のことです。寺の山門から西へ向かう一本道の両側は、商家が立ち並んで参詣の人々にぎわいました。

こちら編集室

ことしも早、師走。残りもあとわずかとなりました。本市にとってことは、新市二十周年を迎えた記念すべき年でした。編集室も行事、行事と追いまくられ、アツという間に過ぎた一年でした。来年はウサギ年。ウサギのようにピョンピョンはね、さらに飛躍しようと思えます。皆さんもよいお年をお迎えください。

新市二十周年記念 十一月の行事

- ☆NHK・富士市ふれあい広場
- ・加山雄三ショー 五日(金) 十
- 八時三十分〜富士文化センター
- ・テレビふれあい保育 九日(火)
- 九時〜市立田子浦幼稚園
- ・公開セミナー「大黄河を語る」
- 十日(水) 十八時三十分〜吉
- 原公民館



新たな創造 確かな発展
—はたちの富士市—

富士のあゆみ

19

新富士市の誕生

合併調印式



昭和41年11月1日、吉原市・富士市・鷹岡町の2市1町が合併し、現在の富士市となりました。

政治・経済・文化など密接な関係にあった2市1町には、古くから合併の動きがありました。昭和32年3月には富士商工会議所で合併促進決議が行われました。昭和36年3月、吉原市は他市町に先駆けて合併促進特別委員会の設置を決議しましたが、具体的な問題とはなりませんでした。

昭和38年、知事公舎で合併促進のための懇談会が行われ、9月には第1回岳南広域都市行政連絡協議会が開かれました。これは実質的な合併研究の協議で、機運は高まりを見せました。

昭和40年、協議会は合併が望ましいという結論を出し、合併促進協議会に切りかわりました。以後、新市の名称、新市庁舎の位置などの調整が行われ、合併に至りました。※「富士のあゆみ」は今回で終わらせていただきます。次号から、新たな企画で登場します